

# B-101 レザーウェア(スエード調)の着衣に関する衛生学的研究

東京学芸大教育 中橋美智子

○三菱化成 K. K. 岡田朋子

**目的** 冬の服装の中、特にコート地としてレザーウェアが急激な進歩で我々の生活に浸透してきている。そこでレザーウェアの防寒服としての適否を、天然皮革・人工皮革を用いた性能実験ならびに着用実験を試み、その保温効果を考察した。また一般にコート地として使用されている毛織物についても同一の実験を試み、三試料について比較検討し、レザーウェアの防寒服としての適否を検討することを目的とする。

**方法** 試料は天然皮革(ピックスエード)、人工皮革(T社製)、毛織物(ツイード)を用いた。各試料の性能実験(通気性・保温性・吸湿性・吸水性・ドレープ性など)を行ない、それらの性能をふまえた上で着用実験を試みた。着用実験は20℃恒温室内で、風の有無によるコート着用時の皮膚温・衣服気候などについてサーミスタ温度計・サーモビューアにより測定を行ない比較検討を試みた。

**結果** ①天然皮革 通気性が小さく有風時の保温効果はよい。しかし接触感に冷たく肌に密着した部位の皮膚温は低い。空気層を有すると保温効果を発揮する。また風合に優れドレープ性がよく着ごころはよい。②人工皮革 通気性が小さく接触感は暖かく、無風・有風ともに保温効果がよい。柔かさにかける着ごころは悪い。吸湿性に乏しいが軽く引張強度に優れている。③毛織物 繊維間に空気層があり無風時の保温効果に優れている。通気性が大きく有風時では空気層が流動しやすく皮膚温の低下が顕著である。